マテリアルの選択基準

Standard of Material Selection



関西東海支部 池田祐一

昨今、歯科用デジタル機器の発展により、使用するマテリアルついても各メーカーから様々な種類が開発され、幅広い症例に対応できる様になってまいりました。一方、実際、臨床の場では、患者の口腔内は個々様々な状況であり、加えて、患者の要求も多岐に渡ることから、それぞれの症例に最適なマテリアルを選択するのに困惑する事もあるかと思われます。光学印象後、修復物を作成する最初の出発点がマテリアルの選択であります。修復物が口腔内に装着された後、その予後を大きく左右する要素であることはご承知の通りです。

マテリアルを選択する際、マテリアル側では、強度、接着、硬度、歯牙の色調の再現性、等、口腔内側では、支台歯の状態(マージン部が縁上か否か、色調等)、修復歯の部位、咬合の状態、更には、制作方法を One visit treatment で行うのか否か。等様々な条件を考慮して行う必要があります。今後も、更にマテリアルの種類は増えてくるかと思われます。

そこで、本日は、上記の様なマテリアル選択時の様々な条件を整理した上で、選択基準について皆様と検証していきたいと思います。